

日常生活における論理性に対する価値観の日米比較

○ 中野瑠美子 (大阪大学大学院)

三宮真智子 (大阪大学大学院)

目的

論理的思考や批判的思考は、学問、ビジネス、そして一般社会のあらゆる領域で必要とされるスキルであり (深堀, 2013), 欧米ではこの育成が重視されている (渡辺, 2004)。わが国においても文部科学省は高校の英語や国語等の科目で論理的思考力の育成を求めている。日米両国の教育現場で求められている論理的思考の要である論理性に対し、日本および米国の人々はどのように考えているのだろうか。本研究は、日常生活における論理性に対する考え方や価値観を日米間で比較検討することを目的とする。

方法

調査協力者 日本人成人 10 名 (男女各 5 名) および米国人成人 10 名 (男女各 5 名; 米国在住 8 名, 日本在住 2 名) であった。なお, 調査協力者の年齢は日米ともに 20 歳代から 60 歳代であった。
調査手続き 英語版および日本語版の質問紙を作成し個別に依頼した。主な質問内容は表 1 に示す 7 項目であり, 「5. 非常にそう思う」から「1. 全くそう思わない」の 5 件法で回答を求め, 項目により自由記述の欄も設けた。

結果と考察

t 検定を行った結果, 項目 1 に示す論理性追求行動に対する満足度の平均値は, 米国人の方が有意に高かった ($t(15)=2.67, p<.05$)。米国人においては, たとえ好ましい結果とならなくても, 自らが納得できるような解決法を模索し続ける行動自体に満足感を抱いていることが, 自由記述からも示唆された。項目 2 でも米国人の平均値が有意に高く ($t(18)=3.81, p<.01$), 米国人は論理的であると思われることを好んでいると推測される。これは, 米国では小学生にも論理的な文章を書くことが求められているため, 「論理的=知的」というイメージもあり, 論理性をより肯定的に捉えていることに起因するのかもしれない。項目 4 で示される有意傾向も米国人の論理性の重視を示すものであろう。一方, 項目 6 の自由記述では, 日米に共通して「友情は論理に基づいていない」や「良い人間関係を保つために非論理的なことも行う」など, 論理性が必ずしも優先されるわけではないことが示唆された。

以上のことから, 本研究では対象者は少数であったが, 日常生活における論理性に対する考え方や価値観にみられる日米間の相違や共通点が示された点は興味深い。

表 1 論理性に関する考え方や価値観の日米比較

質問項目 (要約)	米国		日本		t 値
	M	SD	M	SD	
項目 1 納得のいかない事がまかり通る出来事に対してとった自らの行動の結果に, どれだけ満足したか	3.50	1.41	2.00	0.87	2.67*
項目 2 「あなたは論理的ですね」と言われたら嬉しいか	4.60	0.52	3.30	0.95	3.81**
項目 3 日常生活に論理は必要だと思うか	4.60	0.52	4.20	0.63	1.55
項目 4 あなたの親しい友人は論理的か	3.89	0.78	3.30	0.68	1.76 [†]
項目 5 権威ある情報によると, 石油が流出した〇〇海はすでに浄化されたため, その地域の魚介類を食べても大丈夫とのことだ。あなたはこれを信じるか	2.70	0.95	2.70	0.95	0.00
項目 6 論理的であることと, 良好な人間関係の維持は関係すると思うか	3.50	1.27	3.10	0.99	0.78
項目 7 あなたは, 店員が「これは流行している」と勧める服を買うと思うか	2.60	0.52	3.00	0.67	1.50

[†] $p<.10$, * $p<.05$, ** $p<.01$